



アサギマダラ などの昆虫の マーキング記 録の書きかた

つけねにある白点から先端までを直線的に測定します。



前翅長

前ばねの長さ。測定する場合には、アサギマダラを調べる会では便宜的に前ばねのつけねにある白点（左図）から先端までを直線的に測ることになっています。

マークをつけて放してあげること「マーキング」と呼んでいます。マーキングは誰でも簡単にできますが、記録を必ずつけて、アサギマダラなどの移動昆虫のマーキングリスト「asagi」や、アサギマダラ年鑑などにデータを提出したり、問い合わせがあったときに答えられるようにしましょう。アサギマダラの会で実践している方法にならば、簡単に誰でもマーキングができますが、国立公園などの特別保護地区や、私有地などでの無許可のマーキングは止めましょう。問い合わせに答えられないマーキングもやっつけてはいけません。

1. 記録すること

1) マーク

油性の黒色フェルトペン（細書き用）で、左右両方の後翅の腹面に書き入れましょう。個体識別をするために1頭ずつ別なマークをつけます。また他の人と重複しないように気をつけます。通常は、マークした「人の略称（日本太郎 Taro Nihon であれば、TNI）」、「個体番号（001～）」、「地域の略称（大阪市であれば、OSA）」、「日付（10月4日であれば、10.4）」の4要素を使います。ロシアなどの外国でも読めるように、英数字を推奨しています。電話番号は広報できないので、使ってはいけません。

2) 性別（♂♀）

♂は後翅に黒い性斑があります（下左が♂、右が♀）。



3) 鮮度

鱗粉の残りかたに注目して、3段階に分けます。

新（N）：鱗粉がほとんど残っている。

中（M）：中間。新とも古ともいえない。

古（O）：鱗粉がほとんど落ちてしまい、色あせている。

4) 破損の有無

ハネの傷の有無。詳しい状況は備考欄に。

5) 前翅長

前翅の長さ。アサギマダラの会では便宜的に前翅の

6) 時刻

採集・放蝶時の時刻。採集時刻と放蝶時刻に間があるときは、両方記入します。

7) 地点

くわしい捕獲・放蝶場所です。

8) 天候

捕獲したときの天気です。

9) 気温

飛んでいるアサギマダラを捕獲したときは、必ず書きましょう。アサギマダラは気温に敏感なようです。

10) 備考

♀の場合は、未交尾か既交尾かを調べます（腹部の先端の交尾口の前に、交尾痕（下図の黒い→）があれば交尾済みです。また、軽く押さえて、固いしこりがあれば完全に交尾済みです）。わからないときは、わからないままでもいいでしょう。



訪花（訪れただけ）・吸蜜（口吻を伸ばして吸蜜）植物を記入します。「ヨツバヒヨドリで吸蜜」といった風に書きます。植物の種類がわからなければ、標本を作って専門家にききましょう。

ハネの傷の詳しい状況を記録します。

占有飛翔などの行動は時刻、環境、行動のようすを詳しく記録します。

2. 再捕獲の記録

マークのあるアサギマダラを再捕獲したら、マークしたものと同様に記入し、左端欄外に「再」と書きまます。当日、前日のマーク虫の再捕獲も必ず記録します。マークした場所や時間が明らかな場合には、写真撮影と記録後に放してやってもよいです。なれない人はもって帰る方が確実です。

3. 連絡先 アサギマダラの会事務局 または 大阪市立自然史博物館昆虫研究室（TEL:06-6697-6221 長田）

表面がアサギマダラの会で使用しているマーキング用紙です。印刷して書き込んでください。

アサギマダラの会